

第92回中之島メーデーアピール

今、日本では労働組合の存在そのものが問われる、危機的状況に直面している。

2018年夏から始まった連帯労組への権力弾圧は、近畿一円に拡大。警察・検察は、労働組合として当たり前の活動を「威力業務妨害」「恐喝」「強要」といった犯罪に仕立て上げ、ストライキどころか企業への要求行為すら認めない空気がつくられようとしている。

さらに、コロナ禍を「好機」として、政府・財界は中小零細企業の淘汰政策を推し進めている。彼らが狙っているのは、大企業だけが利益を得る社会であり、低賃金で劣悪な労働条件を強いられている多くの労働者たちが「激安輸入品」に頼ってしか生活できない社会をつくることである。それは、これまであった人と人との顔の見える関係も、困っている人がいれば声をかけるといった景色も消え、すべてがギスギスした「資本の論理」に置き換わった世界に他ならない。

コロナ禍で日本国内だけでも200万人もの労働者が実質的な失業状態に追い込まれている。住む場所を追われ、その日食べるものすらない労働者たちが、炊き出しに行列をつくっている。菅首相は「生活保護があるじゃないか」と言う。しかし、生活保護は自治体の緊縮財政政策により、すでに必要な人に行き届かないものになっている。こうした人びとの命と暮らしを置き去りにした政治によって、いくつもの命が奪われているのだ。

しかし、私たちは決してあきらめてはいけない。

私たちは、この生きづらい日本社会を変える唯一の道は、自分たち自身が、闘いに立ち上がることだと確信している。

これまでの集団的労使関係を否定する不誠実な態度をとる経営者に対してストライキを背景に闘う港湾労働者。正規労働者との格差是正につながる判決を勝ち取った郵政労働者。声を上げることでもコロナ危険手当を勝ち取った医療労働者。労働組合を認めない経営者と闘う介護労働者。困難な状況のなかでも闘いの火は決して消えていない。

私たちは今日の目を迎えるまでに、世界や日本のメーデーの歴史、そして、現在の各国労働者たちの闘いを学んできた。そこには、自分たちの職場や自分たちの暮らす社会をコントロールするのは自分たち自身であり、だからこそ、経営者であれ、国家権力であれ、おかしいことをしようとするればはっきりと異議を唱え、それでも声が通らなければ広く仲間呼びかけて実力で阻止しようと闘いに立ち上がる姿があった。世界の労働者たちは抵抗する力が弱まればこれまで得てきた権利などすぐに奪われてしまうことを知っている。闘い続けることこそが生きる道なのだ。

私たちはこうした全世界の仲間と固く連帯しながら、コロナ禍に萎縮することなく、生きづらい社会、働きづらい職場を自らの手で変える闘いに一層まい進することをここに宣言する。

2021年5月1日

第92回中之島メーデー実行委員会



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭

第92回中之島メーデー

5月1日、第92回中之島メーデーが中之島剣先ひろばにて開催され、約300名の仲間たちが結集し、支部からは執行部を含め26名が参加しました。

集会はコロナウイルス対策を徹底した中、検温や消毒、マスクの装着を義務づけ、声を出さないように注意を促し開催されました。

開会あいさつ後、闘争・争議報告として、東リ偽装請負闘争L.I.A労働組合、郵政ユニオン、大阪教育合同、ケアワーカーズユニオン、全労協、全日建関西生コン支部がそれぞれのアピールをおこない、大阪支部からは吉本副委員長が「争議状態にある会社への連日の抗議、街宣行動を行っており、早期解決に向け頑張ります」と訴えがありました。



閉会あいさつで小林委員長は「コロナだからすべての活動を自粛するのではなく、やれることを模索して、頑張ろう」と団結ガンバローで締め括りました。

集会終了間際に突然の雷雨でデモは中止となりましたが、仲間たちの弾圧や、コロナでも諦

めず戦い抜こうと思いました。
(執行部 岡田)

労働者の権利を主張する日

私たちの8時間労働の原点はメーデーにあるのです。

1880年代、1日約14時間労働が当たり前だった1886年、「8時間は労働、8時間は休息、そして残り8時間は自分たちの自由な時間のために」と要求したのが、現代の私たちに受け継

がれています。

これは労働者の権利なのです。労働組合は権利を主張し、権利を獲得するために当然行動します。私たち労働組合の団結力を結集する1つの場が、労働者の祭典であるメーデーだと私は考えています。「8時間働けば安心して生活できる賃金を！」これが当たり前となる世の中になるよう、今後も皆さんと団結し活動していきます。

(執行部 佐久原)



メーデーの歴史

5月1日が労働者の祭典「メーデー」となったのは、1886年アメリカのシカゴで、「1日の労働時間を8時間労働に」と要求する労働者の大集会が開催されたのが始まりだと言われています。

日本では1920年（大正9年）5月2日、上野公園で1万人が参加して開催されたのが、日本で最初のメーデーでした。

回を重ねるも、1935年（昭和10年）の第16回を最後に開催で

きなくなりました。

軍国主義下では、メーデーを開催することができず、第2次世界大戦後、1946年（昭和21年）に第17回メーデーで復活しました。

1952年の第23回メーデーでは、「血のメーデー」となった歴史があります。

1989年に「連合」が発足し、1990年からは、分裂メーデーとなり現在に至ります。

(執行部 佐久原)